

職員による自己評価

A 「業務改善」について

保護者支援について、他クラスの懇談や勉強会を見る機会があればと思います。研修の機会はコロナの影響で不十分。

B 「適切な支援の提供」について

コロナ禍で感染対策を行いながら出来るプログラムは制限されてしまうが、その中で固定化しないように考えている。

C 「関係機関との連携」について

今年度は、コロナの影響で、本来の支援が実施できていない。

D 「保護者への説明責任等」について

コロナの影響で療育時間が短く、親子日も少なく、いつもより話し合う時間が十分に得られていない状況。限られた時間の中で共有できるように努力している。

E 「非常時等の対応」について

コロナ禍の中、今年度は特に感染症対策を徹底している。避難訓練は、密にならないよう注意している。

保護者による評価

A 「適切な支援の提供」について

できているとの評価は 88.7%。
コロナ禍で回数が少なかったり、制限の中で目新しい事がないが、その中でよく工夫されていると思う。
児童発達支援計画に沿った支援が行われているかについて、持病があるため、子どもの体調がよくない日はゆっくりやっていたのでなかなか計画に沿った支援が出来ていなかった。
プログラムは、もう少し難しいものでも皆出来るように思います。

B 「保護者への説明等」について

できているとの評価は 89.9%。
今年度はコロナ禍で、親の会の活動や保護者同士の連携は難しかった。

C 「非常時の対応」について

できているとの評価は 76.4%。
コロナ禍で避難訓練等は縮小されてしまった。

D 「満足度」について

満足との評価は 84.9%。
先生方の手が足りていないように感じます。

事業所内での分析

- コロナウイルス感染症拡大により、当初予定していた例年の集団療育は展開できず、密を避け、感染防止対策を徹底しながら、個別療育や時間を短縮しての少人数グループでの療育を展開せざるをえなかった。
- コロナ禍で、今年度は親の会の活動もなく、保護者同士の連携についての支援も難しかった。
- コロナ禍で、集団での避難訓練を実施することが難しく、非常時の対応についての評価が低い要因となっている。

分析・検討してみても…

事業所の強み

- **一人ひとりのお子さんに適した支援を実施している**
診察・各種評価の結果を基に、療育プランを作成し、保護者の意向も踏まえ、一人ひとりのお子さんの支援計画を作成している。併せて、作成した計画に基づいて他部門と連携し、お子さんに適した支援を実施している。
- **保護者支援の充実に努めている**
定期的な面談等を通して、お子さんに対する理解を深めていただき、より良い療育効果が発揮できるよう努めている。
- **他職種間との情報共有を行い、より良い支援に努めている**
他職種と定期的に情報共有を行うことにより、多方面からの支援体制が確立できている。

事業所の改善点

- コロナ禍であっても地域での受入れが難しい、主に中重度知的障害や適応困難な児童に対し、高頻度の療育を計画的に保障するため、週5日登園頻度の児童に必要なサービスや療育を見直す必要がある。
- 感染対策を十分に行いながらセンターを利用している児童や保護者が、安心・安全な環境で療育が受けられるよう環境や対応に配慮した運営を行う必要がある。
- コロナ禍においても保護者が児童の成長に合わせて、ライフステージを見通した生活が選択できるよう療育の参加や保護者勉強会などで保護者支援を行う必要がある。
- 緊急時対応、災害、防犯について保護者への周知が不足している。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

保護者からの貴重なご意見をいただき、多くの課題が抽出できたのは非常に良かったと思います。本年度は新型コロナウイルスの影響により、今まで当たり前のように行っていた集団での療育を行えない等、予定していたサービスを十分に提供することができず、利用者の皆様には大変ご迷惑をお掛けしています。このような中でも、療育の質、サービスの低下を招かないようセンターとして工夫を凝らして、新しいスタイルでのサービス提供のあり方を探っていきます。

アンケートにご協力いただきありがとうございました。

職員による自己評価

A 「業務改善」について

研修に参加することで知識が入り、支援や共有をスムーズに行うことができる。研修の機会がもう少しあるとよい。

B 「適切な支援の提供」について

その日行われる支援の内容や役割分担について、各クラスで動線表を作成し、日々確認できている。その日行われた支援の振り返りについて、ミーティングの時間を決め、情報を共有している。次回改善されるように反省すべき点を確認している。

C 「関係機関との連携」について

コロナの影響で従来行われているような連携が行えていない。

D 「保護者への説明責任等」について

少人数での療育等を通して、課題等について個別に親御さんと共有する場面が増えた。

E 「非常時等の対応」について

服薬等、子どもの状況について、日々、ナースと保護者と確認を行っている。虐待防止について、定期的に会議を行っている。身体拘束を実施しているお子さんはいません。

保護者による評価

A 「適切な支援の提供」について

できているとの評価は96.2%。活動プログラムが固定化しないよう工夫されているかについては、出来ているとの評価が100%。

B 「保護者への説明等」について

できているとの評価は88.5%。保護者同士の連携について、コロナで機会が減っているのは仕方ない。今年度は保護者間の繋がりが少なく情報交換が難しい。

C 「非常時の対応」について

できているとの評価は80.8%。今年度はコロナ禍で、全体での避難訓練が難しく、できているとの評価が昨年度より下がった。

D 「満足度」について

満足との評価は84.6%。いつも何かがあると親身になって下さって通ってよかったと思っている。

事業所内での分析

- コロナ禍における療育は、元来の集団療育を実施することは難しく、三密を避け感染防止対策を徹底しながらの小集団での療育を展開せざるをえなかった。特に、感染防止対策を徹底しながらの肢体不自由児への給食提供は難しく感じる。
- コロナ禍で、保護者同士の連携についての支援は難しかった。
- コロナ禍で予定していた避難訓練を定期的には実施できなかったことが、非常時の対応についての評価が低下した要因となっている。
- 医療的ケアが必要なお子さんが多く在籍しているが、職員の医療的ケア知識が不足している。

分析・検討してみても…

事業所の強み

- **一人ひとりのお子さんに適した支援を実施している**
診察・各種評価の結果を基に、療育プランを作成し、保護者の意向も踏まえ、一人ひとりのお子さんの支援計画を作成している。併せて、作成した計画に基づいて他部門と連携し、お子さんに適した支援を実施している。
- **保護者支援の充実に努めている**
定期的な面談等を通して、お子さんに対する理解を深めていただき、より良い療育効果が発揮できるよう努めている。
- **他職種間との情報共有を行い、より良い支援に努めている**
他職種と定期的に情報共有を行うことにより、多方面からの支援体制が確立できている。

事業所の改善点

- 重度肢体不自由児、医療ケア児が多い状況に合わせて、感染対策を十分に行いながら安心・安全な療育を適切な頻度で行う必要がある。
- コロナ禍においても保護者が児童の成長に合わせて、ライフステージを見通した生活が選択できるよう療育の参加や保護者勉強会などで保護者支援を行う必要がある。
- 緊急時対応、災害、防犯について保護者への周知が不足している。
- 児童指導員、保育士職員についても医療的ケアの知識等のスキルアップに努める。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

保護者からの貴重なご意見をいただき、多くの課題が抽出できたのは非常に良かったと思います。本年度は新型コロナウイルスの影響により、今まで当たり前のように行っていた集団での療育を行えない等、予定していたサービスを十分に提供することができず、利用者の皆様には大変ご迷惑をお掛けしています。このような中でも、療育の質、サービスの低下を招かないようセンターとして工夫を凝らして、新しいスタイルでのサービス提供のあり方を探っていきます。

アンケートにご協力いただきありがとうございました。

職員による自己評価

A 「業務改善」について

時期によっては業務改善が充分とは言えないこともあるが、PDCAの意識は常に持っている。
研修の機会は、コロナの影響での難しさがあつたが、業務負担も大きく、研修会への参加は難しい。

B 「適切な支援の提供」について

各クラスのカンファレンスがしっかりと行われており、話し合いにより作成された指導案を日頃から読み返し療育するように心がけている。

C 「関係機関との連携」について

コロナ禍でタイムリーには欠けていた。

D 「保護者への説明責任等」について

課題等の保護者との共同理解については、今年度はコロナの影響で十分とは言えない。コロナ禍での工夫が必要。
保護者間の連携への支援については、コロナの影響で充分ではない。

E 「非常時等の対応」について

現時点では、コロナ対策で避難訓練を十分に行えていないが、今後の取り組み方については見直せるとよい。

保護者による評価

A 「適切な支援の提供」について

できているとの評価は91.9%。
コロナの影響もあり、通所が限定されたが、保育所等が再開された後も、限定が続いたのは残念。
コロナ対策は十分にされたが、活動が限定的なのが残念。
今年度はコロナ禍で縮小された体制ですが、いつもよく見ていただいていると思っている。

B 「保護者への説明等」について

できているとの評価は86.0%。
コロナ禍なので保護者間で会話ができないのは仕方がないと思う。
保護者会に参加できなかった時のその後が何もなく心配。
欲しい情報が来ないことや、時間がたつてから来るので心配な時がある。

C 「非常時の対応」について

できているとの評価は56.3%。
今年度はコロナ禍で、密を避けるため全体避難訓練が難しく、できているとの評価が昨年度より大幅減。
感染症対応についてはよく周知している。

D 「満足度」について

満足との評価は88.4%。
コロナ禍なので仕方がないとわかっているが、行うはずだった予定がなくなる、短縮されているのでやや不安がある。

事業所内での分析

- コロナウイルス感染症拡大により、当初予定していた例年の集団療育は展開できず、密を避け、感染防止対策を徹底しながら、個別療育からスタートし、時間を短縮しての少人数グループでの療育を展開せざるをえなかった。
- コロナ禍で、予定していた多人数での保護者教室等は開催できず、保護者同士の連携についての支援も難しかった。
- コロナ禍で、予定していた避難訓練を実施できなかったことが、非常時の対応についての評価が低い要因となっている。

分析・検討してみても…

事業所の強み

- **一人ひとりのお子さんに適した支援を実施している**
診察・各種評価の結果を基に、療育プランを作成し、保護者の意向も踏まえ、一人ひとりのお子さんの支援計画を作成している。併せて、作成した計画に基づいて他部門と連携し、お子さんに適した支援を実施している。
- **保護者支援の充実に努めている**
定期的な面談等を通して、お子さんに対する理解を深めていただき、より良い療育効果が発揮できるよう努めている。
- **他職種間との情報共有を行い、より良い支援に努めている**
他職種と定期的に情報共有を行うことにより、多方面からの支援体制が確立できている。

事業所の改善点

- コロナ禍で行った「個別療育」や「小グループ療育」などのメリットを整理して、登園方法や時間の使い方などバリエーションを広げ、低頻度療育のあり方を探っていく必要がある。
- コロナ禍もあり、多くの保護者が保護者同士の連携が支援されていないとの感覚を持たれている。
- 非常時の対応についての評価が低く、緊急時対応、災害、防犯などの対応について保護者への周知が不足している。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

保護者からの貴重なご意見をいただき、多くの課題が抽出できたのは非常に良かったと思います。本年度は新型コロナウイルスの影響により、今まで当たり前のように行っていた集団での療育を行えない等、予定していたサービスを十分に提供することができず、利用者の皆様には大変ご迷惑をお掛けしています。このような中でも、療育の質、サービスの低下を招かないよう工夫を凝らして、新しいスタイルでのサービス提供のあり方を探っていきます。

アンケートにご協力いただきありがとうございました。